

ZENKOREN

全広連

2025 SPRING Vol.1113

全広連

二〇二五年四月五日発行／四、七、十月の五日発行／通巻二三号／昭和三十九年二月十二日第三種郵便物認可
発行／公益社団法人全日本広告連盟 〒104-0061 東京都中央区銀座七丁目四番十七号電通銀座ビル七F

電話〇三・三五六九・三五六六
定価四五〇円(購読料は金費に含む)
www.ad-zenkoren.org



Special Report

若手クリエイターよ、Young Lotus Workshopを目指せ



公益社団法人
全日本広告連盟
JAPAN ADVERTISING FEDERATION

CONTENTS

- 2 SPECIAL REPORT 1 若手クリエイターよ、Young Lotus Workshopを目指せ
- 4 SPECIAL REPORT 2 「大阪考・・・商都から笑都 そして〇都へ」
- 7 各地広告協会の動き(福井・岩手・山形)
- 8 CLIP BOARD

COVER ILLUSTRATOR

広告制作の基本は、どれだけ遠いところまで、発想を繋いでいけるか。
どんな些細なきっかけや誰も目にも止めないことでも。
想像と妄想の宇宙にどれだけ自分を浮かべ続けられるか。

しりとりでつなぐ今年の表紙は、前号が「チョコレート」で終わったので、
『と』からスタートです。

作／株式会社TBWA HAKUHODO
アートディレクター 宮崎 琢也

Young Lotus Workshop2024 日本代表チーム



高橋 かのん
(たかはしかのん)
株式会社博報堂



宮崎 琢也
(みやざきたくや)
株式会社TBWA HAKUHODO

若手クリエイターよ、Young Lotus Workshopを目指せ



2025年日本代表の野口さんと神戸さん(ともに㈱電通)

Young Lotus Workshopへは各国から1チームが参加

アジア太平洋の各国代表の30歳以下のクリエイターが2名1チームで参加し、3日間に渡るワークショップと作品コンペで構成されるYoung Lotus Workshop(以下YLW)は、毎年3月にタイ・パタヤで開催されるADFEST(アジア太平洋広告祭)に併催という形で行われます。今年は3月20～22日にADFESTが、それに先駆けて3月18～20日にYLWがそれぞれ開催されました。

全広連では、今年も国内選考によって日本代表2名をYLW本選へ送り出しました。今号では日本代表チームが決定するまでの国内選考をレポートします。

国内第一次選考へ112チームがエントリー

全広連ではYLW日本代表チームを選出するため、例年1、2月にかけて二段階で国内選考を行っています。

第一次選考へは前年の66チームより大幅に増えて112チームが挑み、与えられた課題(別記)に対して作品を提出しました。その後、1月23日に7名の審査員によって厳正な審査が行われファイナリスト5チームが選出されました。



真剣な審査の様子

PreADFESTでファイナリストチーム発表 112→5チームへ

1月30日には、最終選考に進むファイナリストチームを発表するイベント、PreADFEST 2025を東京・銀座で開催しました。このイベントはファイナリストチームを発表するだけでなく、全作品を会場で掲示するため選考参加者は提出された全ての作品を閲覧でき、また全審査員も参加するため自分の作品について直接アドバイスを聞ける絶好の場となっています。

会場にいる皆が固唾をのんで見守る中、最終選考に進むファイナリストが1チームずつ発表されました。各チームに審査員が選出ポイントを伝え、前年の日本代表チームが製作した盾と副賞目録が贈呈されました。審査員が「なぜこの作品が選ばれたのか?」の理由を発表した時、多くの参加者がメモを取る姿が印象的でした。

選ばれたファイナリスト5チームは「全然自信がなかったので嬉しいという気持ちと、これからが本番だという覚悟を決める気持ちです。日本代表になれるように頑張ります!」と最終選考への意気込みを語りました。

約200名が参加したイベントが終了した後も、多くの参加者が残って積極的に審査員に質問し、意見を伺う姿が会場の各所で見られました。



ファイナリスト作品への講評



審査員に意見をもらう

最終選考

～審査基準は『アイデア』と『このチームはどこまで伸びるか』～
後日ファイナリスト5チームは、新たな課題(別記)に取り組みアイデアを提出。2月12日に一堂に会して、YLW本選と同様に審査員に対して1チームずつプレゼンしました。プレゼンと続いての質疑応答はすべて英語で行われ、次から次へと飛ぶ鋭い質問に時には回答に苦しみながらも丁寧に自分たちの考えを伝えていました。全チームのプレゼンと質疑応答が終了後、そのまま審査に入りました。



最終プレゼンの様子

優勝チーム発表の前には、5作品それぞれに対して「最終選考作品の良かった点」「一次選考と最終選考の作品でどちらがよと感じたか」「個人的に感じたこと」「自分が好きだと感じた点」「こうだったらもっとよかったなという点」など、審査員よりそれぞれの切り口でコメントされました。

また最終選考全体を通しては、「社会課題に対してはどうしても真面目に答えようとする。正しいけれど、コンペの場合それでは魅力に欠ける。大胆さが欲しい。」「プレゼン時に原稿を作って読んでいるだけでは伝わらない。プレゼンを自分のものにして、朴訥でもいいので自分の言葉で伝えてほしい。」「プレゼンの見せ方にこだわることも重要。しかしそれ以上にアイデア自体の解像度を高めることが重要。」との意見がでました。

最後に、鏡審査員長が「審査基準は、『アイデア』と『このチームがどこまで伸びていけるか』だけ。このコンペを

通して、全チームが凄く貴重な経験をしていると思うので、今後は【考える】ことを楽しめるようになってほしい。」と総評を伝えました。

日本代表チーム発表!

自分たちの番号が呼ばれた瞬間に「わあ!」と声をあげた、今年のYLW日本代表に選ばれた^{かんべみそら}神戸弥宙さん(㈱電通)と^{のぐちまさる}野口柁晴さん(㈱電通)は、全112チームから勝ち上がった喜びと本選に挑む意気込みを次のように話してくれました。

「代表に選んでいただけたことを、とても嬉しく光栄に思います。考えて、悩んで…でもその先にある、感情が動くアイデアを目指して頑張ります!」(神戸さん)

「日本代表に選出いただき大変光栄です。伝説をつくって帰ってきます。」(野口さん)



神戸弥宙さん



野口柁晴さん

本号が発行される4月にはADFESTはすでに閉幕しており、YLW日本代表の戦いも終了しています。次号Summer号にてADFESTとYLWの報告記事を掲載予定です。楽しみにお待ちいただければ幸いです。本選でもがんばれ日本代表チーム!(3月14日現在)

最後に、今回は一次選考・最終選考ともに答えを導き出すのが難しい課題でした。取り組んだ皆さん、本当にお疲れさまでした。

第一次選考課題

Preventing Young People from Becoming Unintentional Participants in Online Bullying.
(若者がSNSなどネットでのコミュニケーションに潜むリスクを認知させ、安全な使い方を普及させる施策)

最終選考課題

Develop an idea that helps the younger generation who are struggling with feelings of isolation due to the recent changes in communication, to overcome these challenges and reconnect with the real world.
(コミュニケーションの変化により孤立感に悩む若い世代が、それを解消しリアルな世の中とのつながりを取り戻すためのアイデア)

国内選考 審査員 <敬称略・順不同>

審査員長

鏡明(㈱ドリル)

審査員

佐々木康晴(㈱電通グループ)
志村和広(㈱電通)
佐藤雄介(㈱電通)

長谷部守彦(㈱博報堂)
木村健太郎(㈱博報堂/㈱博報堂ケトル)
辻毅(㈱ADKマーケティング・ソリューションズ)



左:道頓堀 右:大阪駅



大阪の味が詰まった特製ビリケン弁当

しかし食い倒れの街であっても、昨年は日本最大級と謳われ、食堂街・大宴会場・ホテル・サウナの他、ダンスホールやキャバレーが併設され、1000名の客が集える大阪のランドマークだった味園ビル(機関誌『全広連』2020年11月号表紙掲載)は惜しくも閉店。時代と共に全盛期の明かりも消えて行くのか…。(消都?)



味園ビル

ここからは今と未来の大阪を考察しましょう。

今、大阪は100年に一度の大阪・梅田エリアの再開発が急加速で進んでいる。特に「イノベーション」×「みどり」×「エンターテイメント」が融合した未来の街びらきに期待が寄せられている。その中心「グラングリーン大阪」は、大阪駅前の貨物ヤード跡地にて進められている大規模複合開発。約45,000㎡を有する都市公園(通称うめきた公園)はCO₂削減、水資源循環への貢献、生物多様性への配慮、広域避難地の機能を有し、南街区と北街区は延床面積157,200㎡を有する。オフィス・ホテル・中核機能施設・商業施設が整った「グラングリーン大阪」は2029年春頃に全体開業、街びらきとなる。

また大阪の街全体を活用したスポーツも盛んで、3月に行なわれたEXPO EKIDEN2025は1970年開催された大阪万博会場(吹田市)をスタート。岡本太郎作の太陽の塔をのぞみながら55年の時を経て開催されている大阪・

関西万博会場(舞洲)がゴール。史上初の実業団と大学生のトップチームが競い、特筆されるのは大阪の大動脈で、人が入れない新御堂筋(しみどうすじ)を北から南へランナーが走るのには史上初。「どうやって観戦、応援するの?」と疑問が生じるが、観戦チケットが発売され商魂たくましい商都大阪は健在。

大阪は今、エンタメ系が集結。中核の梅田大丸店にはポケモン、カプコン、ワンピース、仮面ライダー、クレヨンしんちゃん、更にゴジラショップも上陸。また劇団四季劇場は2005年に、そしてSkyシアターMBSは2024年にオープン。そのほかサンケイホールブリーゼ、ビルボードライブ大阪等エンタメ拠点が集結している。そしてかつて「回る電光掲示板」を有した円筒形超高層ビル 大阪マルビル(大和ハウス工業)はデジタルアトリウムやミュージアム、コンサートホール・舞台等多種多様な複合施設が2030年に向けて建替プロジェクトが本格始動していることも発表された。

食・スポーツ・エンタメの他、世界トップクラスのイノベーション拠点を形成し、多種多様な人や情報、テクノロジーが集まる大阪。

この先大阪がどんな街に進化するのか。「知らんけど(笑)」

4月13日大阪・関西万博が開幕し、いのち輝く未来社会のデザインの実験体験ができる。80館を超える海外パビリオンでは各国産の素材・建築技術・コンテンツ・観光・医療を通じて国際交流に重きを置いている。見どころは「いのち」をテーマにした数多くのパビリオン。細胞、アンドロイド、宇宙、ヘルスケア、ライフスタイルまで、未来の都市生活が体験できる。25年後の自分のアバターと出会い、ミライ人間洗濯機など先端技術、ミライの学び、アパレル、美容はもちろんのこと、火星の石に実際触れることもできる。パーティカルシャフトに乗って火星に行ったり、AR、VRを活用したおぼけの世界を没入体験もできる。開会初日には「1万人の第九」「Adoのライブ」「水と空気が融合した音楽、レーザー、炎を駆使したスペクタクルショー」が開催され、笑いの未来館、外食パビリオンもあり、まさに大阪の歴史の商都・水都・笑都が体感できる。

大阪広告協会会員社も多く出展・支援している大阪・関西万博を機会に是非、大阪へ。ショートではなくロングで、大阪のみならず京都・神戸の全広連近畿ブロックエリアへもお立ち寄り頂き、大阪の未来の「〇都」を探して、体感して下さい。

今回は大阪・関西万博開幕を控える大阪の歴史とこれからの未来について大阪広告協会の松永達也事務局長に伺いました。



次に芸能芸術を見てみると、文楽のような伝統文化から派生して、庶民が楽しめる芸術文化(浄瑠璃)が生まれ、ユーモアを好み、寛容な大阪気質がお笑い文化を生み、ラジオ・テレビの普及がその文化を急速に広め、大阪は「笑都」とも呼ばれる。吉本興業、松竹芸能は上方芸能の2大プロダクションとなり、今や興行、タレント・俳優の養成のみならず、メディアやエンターテインメント事業はグローバル展開されている。

さて今、令和の米騒動で食生活に打撃がありますが、日本の公的市場として取引所の起源とされる「堂島米市場」がかつてここ大阪にあり、全国各地の米相場の基準となった。大阪広告協会の拠点はこのエリアに協会事務局を構えている。

食の都・大阪と聞けば「食いだおれの街」と呼ばれ、たこ焼き、お好み焼き等の粉もん、2度付けお断りの串カツなどが想起される。みなさん大好きな回転寿司は大阪府東大阪市(元禄寿司)が発祥。大阪広告協会主幹事回の近畿ブロック研修会での昼食時に提供された弁当は食の都/大阪の味を詰め込んだ「ビリケン弁当」で食へのこだわりが伺える。

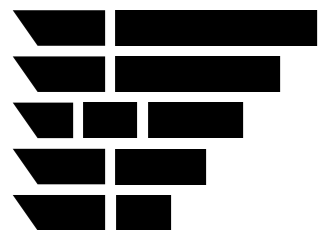
日本の経済、政治の中心地として栄えた大阪の起源は5世紀頃。近世、国内流通の要で全国から物産が陸路や水路を通じて集まり取引され、天下の台所と呼ばれていた。まさに商都と言われる由縁である。また水路に架かる橋の多さが際立ち、大坂八百八橋とも呼ばれ、水の都(水都)とも言われている。そして大阪独自の工業、文化、芸能、暮らしなどが経済成長と共に発展し続けている。

工業では1903年、大阪で第5回内国勧業博覧会が開かれ、高品質な技術や製品が集まった。日本での国家的博覧会として1970年の大阪万博では、今では当たり前になったワイヤレステレホン(=携帯電話/スマホ)、動く歩道のムービングウォーク、電動自転車、モノレール、人間洗濯機などが披露された。そして今、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催の2025大阪・関西万博に繋がっている。

福につながれ、広告。

人やモノとの出会いをつくるすべての広告活動が
くらしをにぎやかに、こころを豊かにできると信じて。
幸福につながる広告とは…
福がある街、福井で考えます。

福につながれ、広告。



FUKUI 2025

第73回全日本広告連盟福井大会

2025年5月15日(木) フェニックス・プラザ

主催：第73回全日本広告連盟福井大会組織委員会・公益社団法人全日本広告連盟

大会ホームページ
<https://fukui-ad.com>



福井大会事務局
910-8552 福井市大和田2-801
福井新聞社営業事業局内
(直通 0776-57-5151)

各地広告協会の動き (2025年)

福井 福井広告協会 臨時総会で講演会開く

福井広告協会(会長=八木誠一郎 福井県商工会議所連合会会頭・福井商工会議所会頭)は1月29日、福井市の商工会議所で臨時総会と講演会を開催、会員企業75人が参加した。

同協会では総会時に広告に関する勉強を兼ねて講演会を開催するのが恒例。今回は電通zeroの嶋野裕介氏を招き、「広告とSNSで地域発信力を高め、地域創生のキッカケをつくる!〜「福井発の話題をつくるコミュニケーション・PR」と題して講演会を行った。

同氏は「情報の発信者自らが楽しむことが大事」「情報の信ぴょう性が問われる時代に、信頼性の高いマスメディアの情報は、生活者の安心につながり、SNSでの拡散にも有利」とし、「SNSはアイデア次第でさまざまな人に知られる大きなポテンシャルがあり、広告やメディアと連動させることでより大きな力が発揮できる」と話した。

終了後には会員から多くの質問が飛び交った。

臨時総会では、全広連福井大会の開催概要や新規入会社などすべての議案を承認。最後に福井大会実行委員長の吉田真士福井新聞社社長が、大会への参加登録を呼び掛けた。



講演する嶋野裕介氏

岩手 岩手広告協会 「新春講演会」開催

岩手広告協会(会長・川村公司 岩手日報社代表取締役社長)は2月5日、盛岡市内のホテルで新春講演会を開いた。会員企業から約50人が参加し、ビジネスの新たなヒントを探った。

講師は㈱電通の林朗子執行役員と森内勇策新聞局ソリューション戦略部長。2人は「マーケティングトレンドと電通の取り組み」と題して講演した。

林執行役員は自社の取り組みの方向性について「顧客企業の成長にコミットするパートナーとして、広告だけではなく、経営戦略や事業戦略を共に考えて実行に向けて伴走する存在を目指している」と強調した。

森内部長は、生活者に効果的に情報を届ける視点として「デジタルメディアにできることとできないことを見極め、新聞やテレビ、ラジオなどの『トラディショナルメディア』側も役割を認識し、デジタルを使うことが大切」と述べた。

講演後の新春パーティーでは参加者が懇親を深め、各社の社業と地域産業経済の発展を期した。



「マーケティングトレンドと電通の取り組み」と題して講演する林執行役員

山形 「山形広告セミナー」開催

山形広告セミナー(主催:山形広告協会)が2月13日、山形市の山形メディアタワーで開かれた。協会会員約90人が参加。サッカーJ2・モンテディオ山形を運営する㈱モンテディオ山形の相田健太郎社長、東北芸術工科大デザイン工学部企画構想学科の関良樹教授が講演した。

モンテディオ山形は3年連続で過去最高の売り上げを更新し続けている。相田氏はその要因として、若年層がさまざまな企画に携わる「U-23マーケティング部」や、60歳以上を対象とした健康教室「0-60モンテディオやまびこ」といった、ファン層を拡大するための取り組みについて説明した。また、事業規模の拡大に伴って強化費を増やした結果、J1昇格のためのプレーオフに2019年以降毎年出場するなどチームとしても結果を出しているとし「2025年シーズンはJ2優勝、J1自動昇格を目指す」との目標を示した。

関氏は「変わる広告業界のあるべき姿とは?」をテーマに、業界の現状について「消費者一人一人に合わせたオーダーメイドの広告を送り出す必要がある」と分析。「新たな価値を顧客に提供することが望まれる」などと述べた。人工知能(AI)の具体的な活用策についても語った。



モンテディオ山形・相田社長の講演を通し効果的なプロモーションの在り方を考察した山形広告セミナー

TOPICS

第13回全広連日本宣伝賞 決定

第13回「全広連日本宣伝賞」選考委員会において、各賞が決定しました。贈賞は5月15日開催の「第73回全日本広告連盟福井大会」(於 フェニックス・プラザ) 式典内で行います。受賞者は右記のとおりです。

- 松下賞** 井上礼之氏(ダイキン工業㈱ 名誉会長)
- 正力賞** 一力雅彦氏(㈱河北新報社 代表取締役社長)
- 吉田賞** 谷喜久郎氏(㈱新東通信 代表取締役会長)
- 山名賞** 奥村鞞正氏(TST) Inc. 代表アートディレクター

第36回全広連広告大学(令和7年度)、秋よりインターネット配信にて開催

第36回全広連広告大学は、(公財)吉田秀雄記念事業財団の協賛のもと、令和7年秋より実施します。全6講義(予定)のプログラムとし、より広く会員等に受講機会を提供するため、事前申込者を対象としてインターネット配信(無料)の形式で開催します。広い視野で業務に役立つ広告知識の習得、業務へのモチベーションアップを目的とし、講師は、広告・マーケティングの第一線で実務に取り組んでいるエキスパートです。詳細は機関誌「全広連」Summer号にてご案内します。

第73回全日本広告連盟福井大会 いよいよ5月に開催!

来る5月15日(木)・16日(金)に第73回全広連福井大会が開催されます。福井で初の開催となりますので、ぜひ皆様ご参加ください!

- 【主 催】第73回全日本広告連盟福井大会組織委員会 【内 容】5月15日(木)…全広連日本宣伝賞・鈴木三郎助全広連地域広告大賞の贈賞
 公益社団法人 全日本広告連盟 記念講演(中野信子氏/脳科学者)
 【日 時】令和7年5月15日(木)・16日(金) 懇親会
 【会 場】フェニックス・プラザ(福井市) 5月16日(金)…視察・見学会、親睦ゴルフ会

INFORMATION

加盟各地広告協会 人事 [順不同・敬称略]

神 戸	〈専務理事〉木和田文雄(㈱電通)	1/1付
	〈副 会 長〉梶岡修一(㈱神戸新聞社)	2/27付
広 島	〈理 事 長〉平野公稔(㈱中国新聞社)	2/1付
山 陰	〈専務理事〉宇畑学(㈱山陰中央新報社)	4/1付
佐 賀	〈専務理事〉水町研一(㈱佐賀新聞社)	4/1付

事務局長就任 [順不同・敬称略]

青 森	〈事務局長〉柏崎広樹(㈱東奥日報社)	4/1付
山 陰	〈事務局長〉高橋賢一(㈱山陰中央新報社)	2024/12/11付
佐 賀	〈事務局長〉星野一裕(㈱佐賀新聞社)	4/1付
熊 本	〈事務局長〉山部元司(㈱熊本日日新聞社)	3/1付

新入会員社紹介 [敬称略]

東京	■EYストラテジー・アンド・コンサルティング㈱ シニアマネージャー/EY Japanウェルビーイング推進リーダー 松尾竜聖
	■PwCコンサルティング合同会社 執行役員 パートナー 松岡英自
	■㈱日経ラジオ社 ・代表取締役社長 小手森信一 ・リレーションビジネス局長 川畑直央
横浜	■神奈川県民共済生活協同組合 ・理事長 手島康博 ・経営戦略アドバイザー 長倉勉
山梨	■合同会社 エヌコミュニケーションズ 代表 中澤佳那
静岡県	■㈱テレビ神奈川 営業局長 山田圭一
広島	■㈱グッドフォルム 代表取締役 松田伸宏
福岡	■㈱affluent 福岡営業所 シニアプランナー 野崎博人

【お 願 い】 人事異動などによる会員の交代や役職の変更等が生じ、機関誌「全広連」の発送先が変更になった場合は所属広告協会事務局へご連絡をお願いします。